老年看護学

構築の考え方とねらい

日本の平均寿命は男女ともに世界長寿国になり、高齢化率は２８．８％（令和 3 年版高齢社会白書より）と超高齢社会を迎えた。一方で少子高齢化や核家族化の影響にもあり、学生は高齢者との生活体験や、臨死期にある対象との生活体験が乏しい。これらの要因により、現代社会で生きている学生は高齢者の特徴を具体的にイメージし難く、表層的な理解に留まりやすい傾向にある。健康な高齢者、自立し主体的に生活している高齢者、地域活動に参加している高齢者、疾病と共生しながら生き生きと暮らしている高齢者、他者からの支援を受けながら生活を送る高齢者など、様々な老年像が捉えにくい。

老年看護学を学ぶにあたり、対象と自己の置かれている現状の理解と課題を明らかにすることからまずは取り組んでもらいたい。

高齢者は認知機能の障害や複数の疾患を有していることから、様々な症状を同時に有することがある。また生活してきた歴史も個人差が大きい発達段階である。さらに老年期は「死」を迎える時期でもある。老年期に限らず人生の終末期はいつ訪れるかわからない。「死」という命題に向き合う対象を理解し、自己の死生観を明らかにする過程も学んでほしい。

多様な状況にあり多様な価値観を有する異世代の対象を尊重し、人間関係構築の基盤となる能力を、老年看護学では養ってほしい。

【科目】

老年看護学概論
老年看護学方法論Ⅰ
老年看護学方法論Ⅱ
老年看護学実習Ⅰ
老年看護学実習Ⅱ